

## インターネットを楽しく安全に使おう

- 教師用ガイドブック -

### 各ステップにおける留意点

#### STEP 1 不正な WEB ページ

インターネットを今まで使ってきて、気になることや心配なことを発表しよう。

- ・事前にアンケートなどを実施しておき、その結果を発表してもよい。
  - グループごとに「不正な WEB ページ」を見てみよう。
  - ・「のろいのページ」・・・不確かな情報
  - ・「緊急避難情報」・・・デマ・流言・不正情報
  - ・「アンケートに協力してください」・・・個人情報の詐取
  - ・「悪口の部屋」・・・人権侵害の掲示板（ B B S ）
  - ・「Hの部屋」・・・成人向けの情報
  - ・「かずちゃんのページ」・・・個人情報の漏出
- 「不正な WEB ページ」を見てグループごとに考えたことを発表しよう。
- この学習で学んだことを作文にまとめよう。
- ・校内 LAN に専用の掲示板などがあればそこに書き込ませてよい。

#### STEP 2 初めての電子メール

パスワードの大切さを知り、電子メールの設定をしよう。

- ・現実に起こった事件などを紹介しながらパスワードを保護することの大切さを指導する。
  - ・半角の英数で正しく環境設定ができていないか、友だち同士で確認させるとよい。
  - ・パスワードが破られると、自分宛てのメールが勝手に読まれるだけでなく、自分になりすましてメールを送られることや金銭の被害にあう可能性もあることを具体的な事例で示すような工夫があったほうがよい。
- 電子メールを送ってみよう。
- ・メールの内容についてはここではあまり取り上げずに、自由に書かせた方がいい。
  - ・注意していないと児童の環境設定や「宛名」のところで半角英文と全角英文を混同する児童が続出するので十分な指導が必要である。メールソフトの環境設定については教師が全児童分を設定してもよい。

#### STEP 3 メールとの交流と M L への投稿

メールを使って交流しよう。

- ・ここではすべての児童がメールを送れるようにしたい。
  - ・メールの内容については後の学習につなげるために、内容面であまり細かく指導せず、自由に書かせた方がいい。ただし、内容に問題のあるメールを送った児童や受け取った児童は必ずチェックをしておき、後の学習の素材にしてもよい。
- メーリングリストに投稿しよう。
- ・個人宛のメールを間違えて M L に投稿した失敗談を例にとり、宛先の確認を毎回しっかりすることの大切さをここではしっかり教えたい。
  - ・最初のうちは、「こんにちは」程度の簡単なやりとりしか見られないが、次第に無意味な文字の羅列や悪口、乱暴な言葉などをおもしろ半分を送信し合うようになる。このような体験も次時の学習の材料となるので飽きるまでやらせる方がよいだろう。

#### STEP 4 電子メールを安全に使うために

「 S P A M メール」って何だ？

- ・投稿 1（個人情報の大切さ） S P A M メールは代表的なものがこのような不審なメールである。誰から送られてきたのかははっきりしないものや、内容が不審なものについては子どもたちに十分注意させる必要がある。ここで特に大切にしたいのが、過敏な反応をすることである。 S P A M メールに抗議のメールを送ったりすることは、相手に自分のメールアドレスを教えることにもなり、さらに深刻な被害が及ぶ危険性もある。

・投稿2（チェーンメール）SPAMメールのなかでもこのようなものはチェーンメールと言って次々とメールが送られ続けることになるのでより悪質と言える。この種のチェーンメールでは、「幸福のメール」や「輸血のお願い」、「ウイルス情報」、「当たり屋のナンバー」、「テレビ取材のお願い」など色々なタイプがあるが、いずれもその出所や内容を確認して適切に対応する必要がある。

・投稿3（デマ、風評）インターネットには虚偽や不正な情報がたくさん行き来している。これらはWEBページに記載されていたり、このようなSPAMメールとして送りつけられる場合もある。電子メールはよりパーソナルな通信手段という側面があるので、送られてくる情報が正しいかどうかを判断する力が必要になる。

・投稿4（個人への中傷、いじめ）インターネットの恐ろしい所は、誰でも簡単に事件の加害者になってしまうことである。ほんのちょっとしたミスや行き違い、軽い冗談の気持ちで行った行為が、そのまま深刻な犯罪行為につながって子どもたちを被害の側に立たせてしまう。このような人を傷つける誹謗中傷のメールも子どもたちを被害の側に立たせてしまう行為である。この他にも、差別的発言や人権を侵害するような発言をした場合も同じような問題が発生する。

・電子メールの学習の最後に、この学習のまとめとして子どもたちの知り合いの人に実際にメールを送信してみるとよいだろう。個人的に送るべき相手が見つからなかった場合は、教師にメールを送るようにする。実際に、自分の家族や知り合いの方にメールを送ることで、電子メールが実際の社会でごく普通に使われる通信手段であることや簡単な気持ちで冗談などをしては多くの人に迷惑がかかることなどをリアルに学習できる良い機会である。

「SPAMメール」が来たらどうするか発表し合い、自分の意見を作文にまとめよう。

・校内LANに専用の掲示板などがあればそこに書き込ませてもよい。

## STEP 5 チャットを楽しく安全に使おう

クラスでチャットを楽しもう。

・できる限り多くの端末を用意し、一人でチャットに参加したり友だちと一緒に参加したり児童が選択できるようにするとよい。

危険なチャットの呼びかけが来たら。

・児童の反応を見ながら、適宜質問や呼びかけに答えながら、上記の内容を投稿していく。

・呼びかけの内容については、個人情報を聞き出したり現実に出会いを誘うような内容であればどのようなものでよい。

危険なチャットの呼びかけについて話し合い、作文にまとめよう。

・児童が体験したことや、現実にチャットで起こっている事件などを事例として取り上げて、具体的に話し合いを進めていくとよいだろう。